

○大山地域タウンミーティング議事録

日 時：令和6年11月24日（日）

午前10時から11時40分

場 所：大山会館

出席者：61人

テーマ1 富山市の空き家対策

<主な説明事項>

- 1 富山市の現状
- 2 富山市の取り組み

【活力都市創造部の説明に対する質問】

（小見地区自治振興会長）

・大山地域の空き家件数は令和2年度202件ということですが、立山山麓を含む小見地区には、そのうち30件ほどあるのではないかと感じています。最近2件ほど空き家が埋まりました。実際どういう方が住んでいるのかわかりませんが、1件は関東ナンバーの車が荷物を運んでいたもので、おそらく関東方面から来た方だと思っています。「富山市空き家情報バンク」は非常に良い仕組みだと思いますが、ウェブサイトにとれぐらいのアクセスがあるのですか。また、不動産業者が自分の持っている物件を空き家情報バンクに登録することは可能なのでしょうか。関東の業者がそのようなサイトにアクセスして、物件を探してきたのかどうかということを知りたいのでお聞きします。

（活力都市創造部長）

空き家情報バンクに関しては、富山市内に存する物件であれば、どなたでも登録

することができます。不動産業者が出している情報でも、重複して載せることに問題はありませので、お気軽にご利用いただければと思います。

ウェブサイトへのアクセス数は、本日お答えできません。申し訳ございません。

(福沢地区自治振興会長)

・今年5月に改定された「富山市空き家等対策計画」の内容を見ました。大山地域には空き家が202件あるということですが、地域によってその密度に差があると思います。特に、市内中心部と中山間地域では、状況や対策が変わってくるのではないかと思います。私の住んでいる福沢地区でも、数年前に空き家に2家族ほど入ったのですが、2家族ともすでに引っ越しされました。地域の風土などもあるので、一概には（引っ越しされた理由を）特定できないと思いますが、今後空き家の発生を抑えるため、廃屋の管理や除去等など、市や県の相当な対策が必要になると思います。

福沢地区で特に問題にしているのは、朽ち果てた建物の問題です。山間地のような人口が少ないところであれば目立たないかもしれませんが、中心部であればかなり目立ちます。このような問題はますます増えると思います。そうした空き家に対して、市では助成や調査を進めていますが、私たちも情報を積極的に把握していかなければならないと思います。住民に対して、わかりやすく説明したパンフレットなどがもっと頻繁に出回れば、私たちとしても非常に安心ではないかと思います。

「富山市空き家総合相談窓口」についてですが、ここではいろいろな内容を相談できますか。例えば、空き家を探している、あるいは空き家を処分したいなど、もろもろの相談に対して、（運営先の）NPO法人の方で応じていただけるのでしょうか。

(活力都市創造部長)

令和2年度の空き家の分布状況の調査によると、特に空き家の数が多いところ

は、例えば旧富山市の中心部、岩瀬、水橋、大山地域では上滝地区など、古くから市街地がつくられていたところに多くなっています。私たちもそうしたところの対策はしっかり進めていかなければいけないと思っています。

朽ち果てた建物があるという問題については、今年度から、「老朽危険空き家等除却事業（老朽危険空き家等を除却する工事費の一部を補助する制度）」という取り組みを新規の事業として始めています。実績はまだありませんので、その状況等も見ながら、補助の制度も検討を深めていきたいと思っています。

情報発信については、空き家に対するパンフレット等も作成してまして、本日、受付でも配布しています。おっしゃるとおり、今後もわかりやすい情報発信に努めてまいりたいと思います。

富山市空き家総合相談窓口については、NPO法人が運営しており、いわゆる不動産のプロの方が相談に応じています。弁護士や解体業者でないとわからない部分はあるかもしれませんが、基本的にはなんでも相談に応じます。

（大庄地区自治振興会長）

・花崎地区の特別養護老人ホームに、ミャンマーから技能実習生が来ています。その技能実習生の宿泊所を探していたので、近くの空き家を紹介しました。空き家になるとすぐ草が生えてくるので、近所の人から「草を刈ってほしい」と町内会へ頼まれるのですが、管理している人がいるのでなかなか町内会では対応できず困って
いました。しかし、研修生が住んでくれたおかげで草の問題は解決しました。

ただ、（実際に入居してみると）家の電気の契約を 20Wから 50Wにあげないと
いけない、元々あった電気製品が全部壊れていて交換しないといけないなど、新た
な問題が出て、相談を受けています。市の担当者に相談しに行くように伝えますの
で、その際はよろしくお願いします。

(市長)

外国人の技能実習生については、富山市に限らず全国各地で空き家を利用しているという実績があります。私たちとしても、しっかり管理ができるのであれば利用していただきたいと思います。

現在、富山県では約 2 万人、富山市に 8,000 人ほどの外国籍の方が生活しています。そのうちのかかなりの部分は、ミャンマー、ベトナム、さまざまな国からの技能実習生が占めています。これから大事なことは、日本の文化や風習に慣れてもらい、町内会や地域の方と仲良くしてもらうことだと思います。例えば、町内会のバーベキューと一緒に参加してもらったり、外国のお祭りのときの踊りや歌を披露してもらったりしている地域もあります。受け入れの姿勢も、おっしゃるとおり非常に大事になってくると思います。

何か問題があれば、あるいは問題が発生する前に、市役所の相談窓口で情報提供や相談をしていただければと思います。これからますます外国籍の方が増えてきますので、よろしくお願いします。

(活力都市創造部長)

先ほどお伝えし忘れましたが、空き家に関するご相談がありましたら、まず居住政策課にご連絡いただければと思います。

テーマ 2 救急出動の現状と応急手当

<主な説明事項>

- 1 救急出動の現状
- 2 応急手当の重要性と救命講習
- 3 富山市火災概況と住宅用火災警報器

【消防局の説明に対する質問】

なし

【その他意見交換】

・①大山地域の振興策について、市町村合併後も含めて、市がどのように計画してきたのか、大まかなことを聞かせてください。

②合併前から、上滝地区は入口の道路が迷路のようになっています。合併のときに、都市計画道路として整備することになっていましたが、いまだに整備されていません。県外の人が、初めて上滝に来たら道がわからないので、電話で道案内をしてあげないといけません。合併して 20 年経っても放置されています。早急に整備をしてほしいと思います。

③常願寺川流域の安全対策についてです。^{かめいわ}瓶岩橋は市が長い間、通行止めにして放置していますが、瓶岩橋は非常に大事な橋だと私は思います。市はどのような橋だと認識しているのでしょうか。50 トンの荷重がかかっても壊れない橋に、人も通れないように通行止めをしています。(常願寺川左岸の) バイパス道路は、土砂崩れが起きたら通行止めになります。今年 6 月、岡田地区は大雨で孤立寸前になっています。昭和 44 年にも大洪水で孤立しています。それなのに、なぜ瓶岩橋を通行止めにして放置しているのですか。いつ通れるようになるのですか。

④クリーンセンター周辺の環境整備をなぜしないのでしょうか。「新婦スーパー農道」は山田からごみを運搬するための道路として整備され、山田から大山地域の福沢地区まではまっすぐに来れる道になっています。しかし、福沢に入った途端、迷路のようになっています。なぜ走りやすい道路に整備しないのですか。また、富山のまちなかからクリーンセンターへ行くときに一番走りやすい道が、西番の道路だと私はと思いますが、雷鳥大橋の入口へ入れないのでクリーンセンターへ行けない道となっています。ごみ収集車はどこを走ってクリーンセンターへ行っているのでしょうか。雷鳥大橋の付近に敷地はあると思いますが、なぜ整備しないのですか。

(市長)

①大山地域の経済対策がなかなか見えないというご意見だと思います。地元の商工会、地場産業、あるいは商店の振興などに対して、人口減少の中でできる限りしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

とりわけ、立山山麓エリアは富山市民の水がめでもありますし、(富山市の水道水の水源の) 約70%は有峰の水を使っています。富山市民にとってはそれほど大事なエリアです。しっかりと地域振興を図ることが、田舎出身の市長である私に課せられた使命だと思っています。(田舎だからといって) 決して見捨てたわけではなく、小学校の存続も含めて、今できることを一緒に考えていきたいと思っています。これからも忌憚のないご意見をお聞かせください。それで今、立山山麓エリアの活性化方策を打ち出すべく、庁内で議論を少しずつ始めたところです。スキー場を中心にどのようなことができるのか、あるいは有峰や亀谷温泉など地元にあるものをどう生かしていけるかということも含めて、また地元の皆さんの元に伺い、意見をお聞きしたいと思います。一緒に考えましょう。

②途中で突き当たって、T字路のようにになっている道路について、私は県議会議員だったときにその問題に取り組んでいましたが、当時は地権者が土地を売ってくれませんでした。そのときは予算をつける準備はありました。そのあと、地権者にほぼ了解がとれたときは、予算がなかったということです。これは、なかなか複雑な問題ですので、早く予算を確保するように、県や国に働きかけて参りたいと思っています。ご理解をお願いします。

③瓶岩橋は、私も大事な橋だったと認識していますが、撤去がすでに決定しています。現在、橋台、床版しょうばん(床板)含めて亀裂がひどくなっており、段差もできていますので、人が通れる状態ではありません。そのため、一刻も早く、地元のご理解をいただいた上で撤去することで決定しています。撤去の際に、対岸の安全対策をどうするかということは、富山市が忘れてはならない観点だと思います。日頃の生活や交通に大事な橋だったと地元からご意見を伺っていますので、代替策について

は、これから一緒に考えていきたいと思います。

④クリーンセンターについては、富山市のごみの搬入量は全体の8割ほどありますが、近隣の滑川市、立山町、上市町、舟橋村の広域圏で運営しています。2月末からは、能登地方などで発生した災害ごみを、受け入れ施設のある地元の皆さんや構成自治体の皆さんにご理解をいただいて焼却を進めています。能登の方々には非常に喜ばれています。皆さんのご理解をいただいて、しっかりと進めてまいりたいと思っています。雷鳥大橋の件は、すぐに西番の道路に降りる工事は構造的になかなかできませんので、ご不便をおかけしていると思います。新婦スーパー農道は、ごみを運ぶという役割もあるかもしれませんが、通勤・通学や経済活動を支える、あるいは農業基盤を支える大事な道路ですので、周辺へのアクセスも含めて、これからも整備を考えていきたいと思っています。

・市では、富山市の中心部へ移住する人に補助金を出しています。この制度は、郊外部から出ていく人を増やし、空き家を増やすことにつながっているのではないかと思います。過疎化を促進させるためにやっているのですか。私たちの納めている税金を使っているわけです。日頃からこの対策は少しおかしいと思っています。すぐにやめられないのなら、広報に出すのをやめてほしいです。

害獣対策ですが、黒牧地区ではサルを年間4頭だけ駆除していいということになっているそうです。しかし、年間10頭以上生まれています。群れがだんだん大きくなっていますので、生まれるのと同じくらいの数に駆除してほしいです。

(市長)

まちなか居住推進補助金の制度は、まちなかに家を建てたり事業者がアパートを建てたりした場合に補助するものや、まちなかに入居した場合に家賃を補助するものがあります。合併当初は、いわゆる「補助対象地域」に、富山市内の約28%の方が住んでいましたが、今は40%の方が住んでいます。そのことにより、補助対象

地域の地価が上がって、富山市の税収はずっと右肩上がりです。その税金を、道路や橋の修繕、自治会への補助など市域全体のまちづくりに使っています。税の循環という面で、非常に効果のある政策だと思っています。また、人がまとまって暮らすということは、道路、橋、水道、下水道などの公共インフラにかかるお金が少なくて済み、効率的です。将来子どもが減っても、富山市が経営を維持していくためのまちのしくみでもあります。このようなまちづくりを始めて 20 年ほど経ちますが、ようやく中心市街地の活性化の一つの目途が立ってきたと思います。

一方で、ご指摘のとおり、過疎化に歯止めのない地域で、人がまちなかに移ってしまうのではないかと、空き家になってしまうのではないかと懸念もあります。このことが表面化してきたので、郊外の拠点づくり、例えば大山地域であれば上滝地区をどのように拠点化していくかということを、今からやっていかなければいけないと思っています。ご指摘もしっかり受けとめて、特に過疎が進んでいる部分へどのような方策があるのかということを考えていきたいと思っています。

サルについては、今富山県が 3 年かけて調査すると言っています。増えているというのは事実だと思います。基本的には、数を減らすしか対策がないと思っていますが、駆除頭数が地域で 4 頭では全く減らないので、私からも県に強く申し上げていきたいと思っています。また、市でも減らすための対策をしていきたいと思っています。

・（続き）中心市街地にお金をかけるのはわかりますが、この辺りに住んでいる人もいなくなるわけではないし、公共サービスのお金は必ず要るわけです。田んぼはダムの代わりとして（洪水を防ぐなどの）役割もあります。田んぼをする人がいなくなって、荒れ地になってしまったら、生産性がなくなり税も入らなくなると思います。まちなかばかり手厚くするのはおかしいと思います。

（市長）

おっしゃるとおりだと思います。周辺の過疎地、田園地帯、中山間地も全て富山

市の大事な地域です。今まで進めてきた政策は、基本としてはありますが、至らなかった点をどうしていくかというのは、私の課題でもありますし、市役所の職員もしっかりと受けとめて政策を打っていきたいと思います。

・空き家の利活用は、移住対策に結びついていくのではないかと思います。入善町が移住対策として、保育所と公立小学校で（子どもの利用を）受け入れていて、移住のお試し施設の整備もしていると聞いています。富山市でもぜひ、このような取り組みをしていただきたいと思います。仕事柄、県外から（移住を考えている方のお子さんは一時預かりとして（保育園で）お預かりできるのですが、その兄弟が小学生だと行き場所がないということが起きています。せっかく大山地域に小規模特認校である小見小学校があるので、そこで短期滞在のお子さんを受け入れて、入善町のような取り組みをしていただけないかと考えています。

（市長）

空き家対策に合わせて、例えば、保育所等の政策や放課後児童クラブ、子ども会などを絡めていけば、居住推進に繋がっていくのではないかとご意見だと思います。そのとおりだと思います。

富山市から出て行く人と、富山市に入ってくる人の差は、入ってくる人の方が毎年300人以上多くなっています。富山県の中でも「選ばれるまち」になっていると思いますが、空き家対策に関しては少し立ち遅れていると感じています。例えば、上市町は「0円空き家バンク」、魚津市は「100円空き家バンク」という対策をしていて、実際、入居者が増えています。お子さんの教育問題や保育問題を解決して居住してきたという人の話も随分あります。庁内の横の繋がりを密にして、政策を打っていきたいと思いますので、またご意見をお聞かせください。

・私の自宅（大山北新町）の前に児童公園があります。遊具に「使ってはいけませ

ん」というテープが貼ってあり、そのまま2年ほど放置されています。

何人が集まって公園でラジオ体操をしているのですが、草が気になって除草をすることがあります。私たちが除草をした後に、少ししか草が生えていないところをシルバー人材センターの方が除草されて、もったいないと思うことがあります。市が除草をいつするかわからないので、私たちが勝手に除草をしてしまうのですが、せめて工事現場のように「何月何日に除草します」とわかるように（案内板を）立てていただけないでしょうか。いつ除草するかわかるようにしていただければ、それまでの間、私たち身内で少し除草しようかという気持ちになります。

また、いつ除草するのかわからなくて大山町（大山行政サービスセンター）に電話をすると、「土木課に電話してください」と言われます。同じ市役所に電話しているのに、富山市という1つの会社が横に繋がっていない気がします。内線のように、すぐに連絡がいくようにしてほしいと思うことがあります。

いずれにしろ、子どもたちのために、常に児童公園を見て回るような体制にしてほしいです。公園に草がないときは子どもたちが来ています。草が生えると蚊が出ますので、子どもたちは来なくなります。環境整備は大事だと思います。

（市長）

現在、大小合わせて1,100ほどの公園を富山市が管理しています。町内会の公園の管理や除草については、わずかな管理費で町内会にお願いしているところ（や、土木事務所建設課の直営班が行っているところ）が主となっています。（直営班が行うところについては、）除草をいつするか、町内会と連絡を密にしてわかるようにしていきたいと思います。建設部にしっかりと伝えます。

遊具が2年間放置され使えないことについては、お詫びするしかないと思います。全ての遊具を毎年点検し、順番に直したり更新したりしていますので、当該公園も含めてどうなっているか調べたいと思います。いずれにしても、子どもたちが遊べない公園ではよくないので、対応するように伝えます。

巡視についてはいつもしていますが、連絡事項を町内にフィードバックしていないということですので、連絡を密にするように言っておきます。

・防災について質問します。今年震災があったこともあり、大庄地区自主防災会連合会の避難所開設運営訓練に参加しました。避難所である大庄小学校体育館に避難したとき 1 家族あたり 2m×2m のスペースが割り当てられると説明がありましたので、富山市の担当者にこの避難所には何人収容できるのか聞いたところ、200 名と答えられました。大庄小学校周辺地域の体制を考えると、私たち家族がこの避難所に避難しても入ることができないのではないかと思います。そこで質問ですが、大山地域の避難所は、そのほか上滝小学校、上滝中学校、大山社会体育館、大山総合体育センターなどがありますが、これらの避難所すべての収容人数から、地域全体の避難者が避難完了できる確実性をどう想定されているのでしょうか。避難行動には大変な体力と精神力が必要です。避難行動の確実性を高めることは、体力の消耗を抑えるとともに、安心感を与え、前向きな感情にしてくれると思います。どの避難所に向かえば確実に避難できる可能性が高いかを知りたいです。

もう 1 点、私の住んでいる町内会には自主防災組織がありません。そこで、共助としての防災意識を町内会に高めるため、富山市出前講座を受け、指導していただきたいと思っています。その際、私たちの町内会独自の状況、個別の条件、事情を踏まえた指導をお願いすることはできますか。

私の希望ですが、1 家族に 1 台、防災用端末を支給していただいて、災害時に生成 A I が位置情報などすべての情報から判断し、災害から命を守る最善の避難行動を私達にアドバイスしてくれるという環境が整うことを願っています。

(市長)

大規模な災害が発生した場合、どこへ逃げるかということですが、まずはグラウンドなどの「避難場所」に逃げてくださいと思います。次に、「避難所」に移動

してもらふことになります。避難所の管理者が、天井が落ちていたり窓ガラスが割れたりしていないかなど、安全を確認して（避難所の鍵を）開けますので、それから避難所へ移動してもらふというのが（避難行動の）本当の姿です。そういうことを皆さんに伝えきれていなかったことは、今回の地震の反省点でもあります。

一旦避難所に行ってもらふのですが、被害が少なくて家に戻って生活できる人もいますので、そういうことも考慮して、避難所の人数というのはある程度決まっています。（大庄小学校の）体育館は200人のスペースということですが、いざとなつて足りなくなれば教室を開放することなどを検討しています。なぜ教室はすぐ開放できないのかというと、個人情報がたくさんあるからです。個人情報の管理をどうするかということについて、今詰めているところです。

どこが安全な避難所かは、災害の状況によるとと思います。近くの避難所が水浸しになっているという状況であれば、水の被害のない高いところへ行った方がいい場合や、近くの避難所が地震の被害を受けていたら、多少離れていても別の避難所に行った方がいい場合もあります。実際には混乱すると思いますが、ケースバイケースで情報発信をしていきたいと思っています。

自主防災組織をつくることや、防災訓練を町内で行うことは非常に大事です。「共助」として大事だと思います。ありがとうございます。出前講座を利用させていただいて、町内会の自主防災組織の設立に対する補助もありますので、検討していただければと思います。町内会独自の悩み事や特徴に対しても、個別に相談に乗れると思いますので、ぜひお声がけいただければと思います。

一家に1台、災害時に情報発信をする端末を配布すればどうかという提案をいただきました。非常に効果的だと思いますが、現在は、携帯電話、スマートフォン、タブレットに対して情報発信することにしています。大災害のときに通じにくくなるという欠点がありますが、どのようにしていけばいいのか、実現可能性も含めて検討したいと思っています。

(小見地区自治振興会長)

・私がお願いしたいことはサル対策です。名物の「あわすのそば」がありますが、今年は（そばの畑が）サルの被害にあい、全滅だそうです。田んぼに入って、稲も食べるようになりました。また、この地域では、サルの威嚇行為が結構増えてきています。このままでは人身災害が発生する恐れがあり、サル対策は緊急を要すると思います。県が作っているニホンザルの管理計画を、私も何回も読みました。計画では、被害のレベルを1から4まで分けてあり、人を威嚇するような行動を見せる場合、または群れの全体が農耕地にほとんど通年で出沒する場合はレベル4になります。レベル4になるとその群れを全部殺すということも書いてあります。しかし、それが全然実行されていません。

上滝地区では、サルが毎日のように出沒していますし、威嚇するような行為も見られます。市長、ご存じですか。上滝小学校のプールにサルが2回ほど出沒しました。そんなことも起こっています。私たちはサルとは絶対、共生できません。ぜひ、殺処分を積極的に行う方向に、県の方に強く申し入れていただきたいと思います。

(市長)

おっしゃるとおりだと思います。威嚇行為が頻繁に見られること、農業被害も大きいことを、市役所や県としっかりと情報を共有します。一度、サル対策に関する（地元の方との）打ち合わせをお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

・「こどもまんなか社会」について、子どもたちがいかに住みたいと思える場所をつくるかということが大事だと思います。大山会館の周りに今ちょうどスペースがありますので、雨や雪の日でも遊べる遊具施設が整備されれば、ファミリー層が増えるのではないのでしょうか。射水市、立山町は、市役所の周りに公園や遊具施設があり充実しています。特に大山に住む人たちは、「遊具難民」となっており、太閤

山ランド（射水市）など少し遠出しなければいけないことがあります。近くに広い遊具施設などができればファミリー層が来てくれて、まちの循環も進むのではないかと感じています。

上滝地区に新しい施設（大山会館）ができましたが、以前は田畠地区のコミュニティセンター（大庄公民館）の広場で遊ぶことができたという意見もあり、そこも共通化して利用できないかと思っています。（大山会館は）場所が狭くて、子どもたちが十分に遊べないという意見を聞くので、広い場所でも遊べるようにしてほしいと思います。

最後に、大山地域には小児科がありません。病院も歯科が1件ありますが、病院自体も少ないです。子どもも対応できる眼科などをいかに誘致するかを考えてほしいと思います。また、射水市のアイタウンのような商業施設があるだけでファミリー層が増えるのではないかと思います。そういう考えを持って大山地域を見ていただきたいと思います。

（市長）

こどもまんなかの観点で、遊具のことや、特に雨や雪が降ったときの室内の遊び場について提案していただきました。持ち帰って検討したいと思います。

ただ、大山地域や、私の住んでいる婦中地域も、山や田んぼなど自然がいっぱいで、私が子どものとき遊具はブランコか鉄棒しかありませんでした。今は危ないので無理かもしれませんが、子ども同士で川や山で遊ぶ、そんなことをして1日を過ごしていました。しかし、時代は代わって今の遊び方の潮流は、保護者と一緒に遊具で遊ぶことだと思います。コミュニティセンターの遊び場に関するご意見についても、こどもまんなかの観点で検討していきたいと思います。

医療については地域格差がありますが、富山市は医療機関数や医者の数、医療従事者数が充実しています。高度急性期医療を担う富山大学附属病院や県立中央病院のほか、富山赤十字病院、済生会富山病院、富山市民病院など総合病院もたくさん

あります。一方で、地域の眼科、歯科、皮膚科、小児科などについても、もう少し開業しやすくなるような方策などを考えていきたいと思います。

※発言の一部を整理して掲載しています(広報課)